

瑞穂地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年8月10日（金）19：00～20：05
- 2 場所 瑞穂地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 14名
市出席者 4名（深澤市長、中島福祉部長、安本地域振興局長、
武田気高町総合支所長、）



4 テーマ 安心・安全な地域と地域活性化について

5 概要

（地元あいさつ）

今年は西日本豪雨や逆走台風など災害が多い年となっている。本日の意見交換にも、防災関係の話が出ると思う。時間が限られているが、様々な意見を出していただければと思う。

（市長あいさつ）

前は2年前の7月に開催した。今回から、よりざっくばらんな意見交換ができるようにと進め方を少し変え、地元で司会進行をお願いしている。会の進め方も含め、忌憚のないご意見をいただけたらと思う。

（司会）

最初に、地元からまちづくり協議会の取り組み等を説明いただきたい。

テーマの背景

地区の人口の減少（平成20年人口1,332人→平成30年人口1,134人）や少子高齢化が進みつつある現状の中で、瑞穂地区のめざす将来像の姿を「みんながふれあい支えあい思いやりのある 明るく住みよい地区 瑞穂」とし、環境保護と安心安全に暮らせるまちづくり、ふれあい支え合い活動、思いやりのあるまちづくりに取り組んでいる。

瑞穂地区の取り組み

①地区防災対策の推進

毎年、地区民40名程度が参加し、地区防災訓練を実施している。内容は、各集落の区長を中心に、集落の危険箇所の点検や、防災講習会（昨年は、救急救命と簡易担架の作り方とその利用法を学ぶ）、炊き出し試食などを行っている。

②少子化対策の推進

瑞穂小学校の児童は現在53名で、20年前の約3分の1となっている。まちづくり協議会では婚活支援事業を実施しており、登録いただいた方の出会い（お見合い）を支援している。引き続き登録者の募集を行っているが登録が少なく、成果は上がっていない。今後は、とっとり出会いサポートセンターと連携して取り組んでいく予定にしている。

③健康づくりの推進

毎年、講師を招き健康講演会を実施している。参加者は、毎年20名程度である。昨年の内容は、徳吉薬局から薬剤師を招き、「薬の正しい知識などについて」の講演を聞いた。また、地区文化祭では、まちづくり協議会員がしゃんしゃん体操を披露し、その後、来場者とともに体操するなど、地域の健康づくりに取り組んでいる。

①地区防災対策の推進について

7月豪雨の際、気高町はコミュニティセンターが避難所となったが、瑞穂地区からは遠く避難しづらいと感じた。すぐに避難してもらえよう、避難所を近くの集会所等に設置し、地元と市で情報共有して、避難場所を住民に周知し避難してもらおうようにできないか。

避難行動要支援者対象者リストについては、対応が難しくわからないため引継ぎがうまくできていない。しかし、近くの人を助けてあげられるような体制づくりが必要だとは地域でも感じている。誰かを助けないといけないという認識を常に持つためにも、皆で情報共有できるようにし、要支援者リストを区長だけでなく、みんなで共有できるとよいと思う。

②少子化対策の推進について

瑞穂小学校の児童は、現在53名と昔と比べて少なくなっている。転入制度もあるがあまり来てもらえていない。他に人口増加対策として、住宅団地をつくる、空き家対策をするなど考えている。鳥取西道路が開通すれば鳥取市中心部への通勤時間が短縮され、瑞穂地区がちょうどいい通勤圏になると思うが、住宅団地をつくる等できないか。

③公共交通の維持確保について

高齢化により、運転免許を返納される人が増えていくように思うが、返納すれば買い物等に行くことが困難になるため、利用しやすいような循環バスのあり方を考えてほしい。自分

たちでバス運行ということもできるのかもしれないが、人口も少なく難しいと思うので、支援をお願いしたい。

(司会)

最初に、地区防災対策の推進について意見交換を行いたい。まずは市の考えをお聞きしたい。

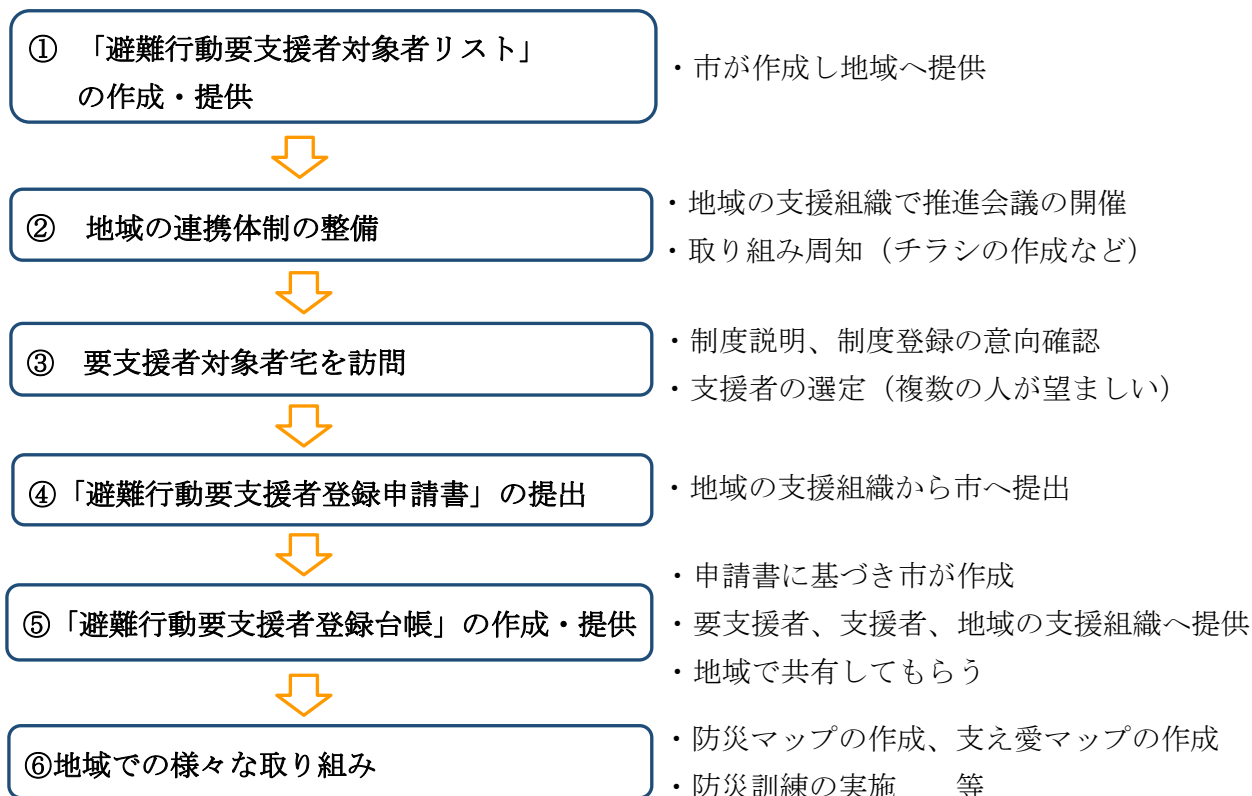
(市長)

鳥取市は、各災害の適応性や収容人数等の要件に合致するものを指定避難所として指定しているが、指定避難所がお住まいの地域の近くにあるとは限らない。7月豪雨では全市的に避難指示を出した。災害発生時、夜間等に遠くまで避難することはかえって危険なこともある。一番身近な集会所等を緊急時に避難所として活用されるのは非常に良いことであり、住民がそこに避難された場合は鳥取市でも支援を行っていききたい。まずは、自分自身の身を守りお互いを支援しあう自助共助の行動を取っていただきたい。

(福祉部長)

災害時に、地域で助け合い避難行動をとっていただくのが理想ではあるが、地域のつながりが薄れてきている昨今では難しくなっている状況である。この状況下で、避難が難しい方々を支えていくために、避難行動要支援者支援制度が創設された。瑞穂地区でも、平成24年度から取り組みを始められたと聞いている。

「避難行動要支援者支援制度」取り組みの流れ



○「避難行動要支援者対象者リスト」及び「避難行動要支援者登録台帳」の共有先

「対象者リスト」	「登録台帳」
自治会町内会（自主防災会）	自治会町内会（自主防災会）
地区民生児童委員協議会	地区民生児童委員協議会
地区社会福祉協議会	地区社会福祉協議会
東部消防	東部消防
警察	警察
	地区公民館
	支援者
	要支援者

地域での様々な取り組みの1つとして、支え愛マップの作成がある。支え愛マップとは、災害時に誰かの助け・声掛けを必要とする人、声掛けができる人、避難先など一連の情報を盛り込んだ地図のことで、作成自体が目的ではなく、作成する過程で地域の方と話し合いをし、助け合いの意識向上を図ることを期待している。作成にあたっては、「災害時における支え愛地域づくり推進事業補助金」というものがあり、避難訓練を行う際の備品購入にも使える補助金となっているので活用していただければと思う。避難訓練の際にこういったものを活用しながら、避難困難な方がより早く避難できるよう、みんなで助け合い、声かけしながら支え合っていく取り組みにしていいただければと思う。

（地元）

避難行動要支援者対象者リストはもらっているが、避難行動要支援者登録台帳はもらっていない。

（福祉部長）

新たに要介護認定を受けられたり、障がい者手帳を持たれたりする方がおられるため、避難行動要支援者対象者リストは毎年提供し、古いリストは返していただいている。避難行動要支援者登録台帳は、新規追加や内容に変更があった場合に提供しているが、内容に変更がなかった場合は以前の台帳をそのままお使いいただいている。

（気高町総合支所市民福祉課長）

避難行動要支援者登録台帳の整備が不十分であるとの意見もいただいているため、更新することを検討している。またご相談させていただければと思う。

（地元）

身近な集会所等を緊急的な避難所とした場合に、市からこういった支援がいただけるか具体的に教えてほしい。

（市長）

身近な集会所等への避難は緊急的な場合になると思うが、市から職員を派遣する、必要な物資の支援等、できる限り行っていきたい。

（地元）

7月豪雨時は、川が増水しておりどこに逃げていいかわからない状況だった。雨が降った時にどういうルートで逃げればいいのかあらかじめ決めておいてほしい。

（市長）

災害時、夜間等に避難することはかえって危険なこともある。その場合は、できるだけ高いところに垂直避難する等、身を守る行動をとってほしい。台風や大雨等災害発生が予想できる場合、鳥取市は早い段階から自主避難所を開設し、災害発生前の早めの避難を呼びかけている。災害情報については、FMラジオ、ケーブルテレビ、鳥取市ホームページ等で発信している。こうした情報を活用し、早めの避難行動をとっていただければと思う。

（地元）

先日、自主防災会の会議でハザードマップの見方を学んだので、区長に周知したい。

（地元）

市営住宅は、入れ替わりがある。入居時に避難関係の情報を説明してもらったらどうかと思う。

（建築住宅課補足）

市営住宅への入居にあたっては、当選者全員を対象に入居説明会を行っています。この説明会で、台風や大雨等で災害発生が予想される際の、鳥取市からの避難関係情報の入手方法や、鳥取市総合防災マップ（ハザードマップ含む）の周知など行っていきます。

（地元）

防災行政無線での放送が聞き取りづらく、災害時に聞こえるか不安に感じる。

（市長）

防災行政無線は、緊急時には最大音量で流れる仕組みになっている。聞き取りにくいこともあるかもしれないが、鳴っていたら何か命に係わる危険性があるものと判断し、テレビ等でも情報を集めてほしい。0857-21-6100に電話をかけると防災行政無線で流れた内容を聞く事ができるので活用してほしい。現在コミュニティFMの整備を進めているが、いろいろなものを取り入れて、複数の手段で情報をお伝えできるようにしていきたい。

(司会)

次に、人口増加対策と公共交通の維持確保について市の考え方をお聞きしたい。

(市長)

人口増加対策は、日本全体の大きな課題であり、鳥取市でも人口減少を食い止めるべく取り組みを行っている。

瑞穂地区に住宅団地をつくってはどうかのご提案だが、人口が減っていく中まちなみを広げるとなると、それを維持していくためには大きな経費が必要であるため、将来的に考えると難しい。むしろ、瑞穂地区の特性を活かして、外から人を呼び込む、あるいは若い世代に定着、定住をしていただくような取り組みをしていくことが必要だと思う。鳥取西道路が開通することも好機と捉え、鳥取市の西エリアに企業誘致等も行ってはどうかと考えている。鳥取市は、10年くらい前から移住定住の促進ということで、市外、県外から多くの方に住んでいただけるような取り組みもしている。様々な支援制度もあるので、それも活用してもらい、地域の魅力を発信し、定住人口、交流人口を増やしていきたい。

また、公共交通を維持確保していくことは市政の大きな課題であると考えている。公共交通の便数を維持するためにも、できる限り公共交通をご利用いただきたい。また、地元でNPO法人を立ち上げていただき、路線バス等も走っていない所での地域内の住民等の運送を行っていただく「公共交通空白地有償運送」という方法もある。鳥取市としては、できる限り公共交通を様々な形で維持確保できるように努めていきたいと考えている。

(司会)

2つとも非常に難しいテーマであると思う。意見があればまた市に寄せていただければと思う。

テーマにはないが、瑞穂小学校体育館は、大雨時、特に北側からふきつける雨が降ると雨漏りがするので調査をお願いしたい。また、同体育館の暗幕の調子が悪いため対応をお願いしたい。

(市長)

まず状況を確認したい。

(教育総務課補足)

学校施設の改修については、各学校からの営繕要望をとりまとめて、危険度などから判断し優先順位を決めて順次対応することとしています。

瑞穂小学校体育館の雨漏りについては、今年度の営繕要望で確認しており、今年度修繕対応することとしています。

また、暗幕については今年度営繕要望で出されていませんでしたので、まずは学校から要望いただいたのち、あらためて状況を把握したうえで検討したいと考えています。

(市長あいさつ)

今日いただいた課題はいずれも重要な課題である。十分な答えができなかった部分もあるが、これからの市政でしっかり考え、対応していかなければならないと思っている。他にご意見等あれば、市にお伝えいただければと思う。

人口減少、少子高齢化と現在非常に厳しい状況が続いている。先行きが見えないこともあるが、悲観することなく皆一丸となって将来を切り拓いていきたい。